

保険・年金
フォーカスさらなる高成長が予想されるインド
保険市場—今後5年間の収入保険料平均増加率は、
生損計 10%、生保 9.5%—保険研究部 上席研究員 有村 寛
(03)3512-1822 arimura@nli-research.co.jp

1—引き続き著しい成長が予想されるインド保険市場

Swiss Re Institute は今年1月、急成長を続けるインド保険市場についてのレポートを公表した¹。同レポートによれば、経済成長、デジタル化、規制の整備を背景として、インドの保険市場（生損保計）は、2029年までの期間において、年平均で10.0%増加し、新興諸国平均（7.2%）、世界平均（4.8%）、（生保では、同9.5%、7.6%、5.0%）を大きく上回ることを予測するとともに、G20諸国の中でも最も急速に成長する、とされている²。

また、上記、今後5年間の収入保険料増加率は、表にはないが過去5年間（2019年-2024年）の年平均増加率（生保・損保計6.8%、生保6.9%）を大幅に上回っている。

【図表1】 インドの保険市場見通し

		2024年 (10億米ドル)	2029年 (10億米ドル)	年平均増加率
収入保険料（生保・損保計）	インド	148	238	10.0%
	新興諸国	1487	2110	7.2%
	アジア新興諸国（中国除く）	237	365	9.0%
	世界	7770	9837	4.8%
うち 生命保険	インド	110	173	9.5%
	新興諸国	875	1262	7.6%
	アジア新興諸国（中国除く）	166	252	8.7%
	世界	3337	4265	5.0%

（資料）Swiss Re Institute 「India's economy and insurance market_ growing rapidly, but mind the risk hot spots」(Jan 2025)より。
年平均増加率は、筆者にて計算。

¹ Swiss Re Institute 「India's economy and insurance market: growing rapidly, but mind the risk hot spots」(2025年1月14日)。当レポートでは、好調な経済に支えられ、引き続き保険マーケットは著しい成長を予想しているが、大都市における災害への脆弱性にリスクが潜んでいる、と指摘している。

² なお、インドでは、生保の収入保険料は、生損保合計の74%と、約4分の3を占めている。

2—世界におけるインド生保市場

急成長が予想されるインド生保市場だが、2023 年収入保険料における世界のマーケットでの位置づけを示したのが(図表 2)である。

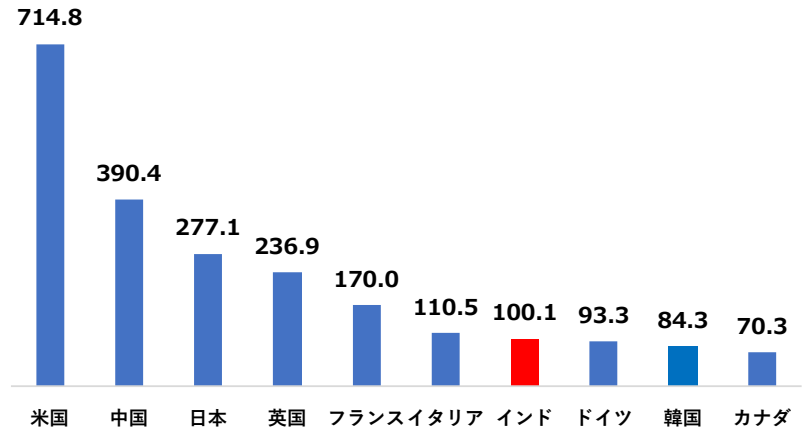
2024 年に Swiss Re Institute が公表³した 2023 年の世界の生保収入保険料では、インドは世界第 7 位となっている⁴ (図表 2)。

前掲の Swiss Re Institute のレポートには、世界の生保市場におけるインドの順位についての将来予測は記載されていないが、昨年 5 月にアリアンツが公表した Allianz Global Insurance Report2024 によれば、2034 年には、米国、中国・に続き、世界第 3 位となることが予想されている。

2022 年 3 月に、新長官 Shri Debasish Panda 氏が就任して以来、インドの保険監督当局である IRDAI (Insurance Regulatory and Development Authority of India インド保険規制開発局)

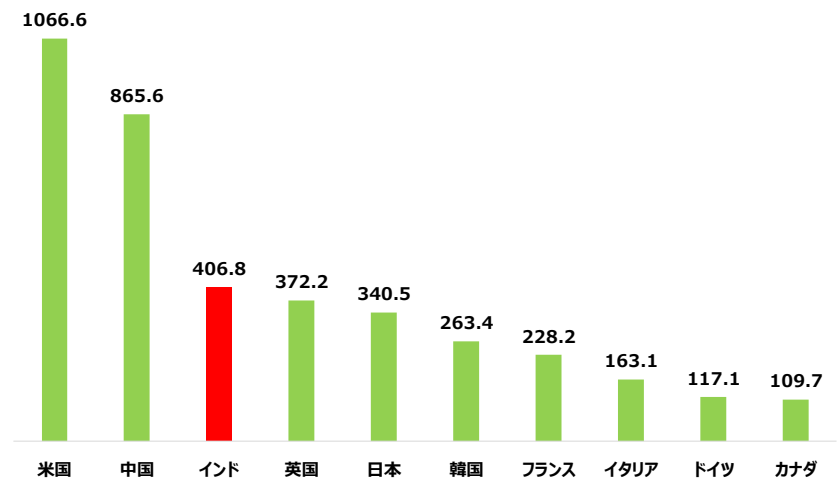
は、2047 年までに、すべてのインド国民が適切な生命保険、医療保険、損害保険に加入し、すべての企業が適切な保険ソリューションによってサポートされる "Insurance for All" の実現を掲げ、実現に向けた規制改革の検討、実施がされてきたところである⁵。インド政府は、国民を経済的に豊かに

【図表2】2023年 収入保険料（生保）世界トップ10市場実績（単位；10億ドル）



(資料) スイス再保険「World insurance 2024」。

【図表3】2034年各国の生保収入保険料（上位10か国、単位10億ドル）



(資料) Allianz Global Insurance Report 2024より。筆者にてユーロからドルへ換算。

³ Swiss Re Institute 「World insurance 2024」。

⁴ なお、インドは、2022 年の生保収入保険料でも世界第 7 位だった (Swiss Re Institute 「World Insurance 2023」)。

⁵ 安井義浩「2047 年までに、すべての人に保険を (インド) -インドの保険監督当局 (IRDAI) の検討状況を紹介」『保険・年金フォーカス』(2024 年 11 月 19 日) (https://www.nli-research.co.jp/files/topics/80258_ext_18_0.pdf?site=nli) では、直近のインド保険監督当局 (IRDAI) の取組みについて紹介されているほか、Shri Debasish Panda 氏が就任して以来のインドの規制改革の動きについては、以下の一連の中村 亮一『保険・年金フォーカス』にて紹介されている。

するための重要なツールとしてデジタル技術に着目し、様々な分野でデジタル化を進めており⁶、2024年3月20日には、保険の購入、請求の決済、その他の機能などの保険サービスを提供するオンラインプラットフォームである Bima Sugam が設立される等、デジタル化の進展も著しい。

フィッチでは⁷、「インドにおける生命保険の成長は、生命保険商品のメリットに対する認知度の低さによって妨げられて」おり、「よりよい消費者教育が必要とされている」とされている。この課題が解決されれば、低コストのマイクロ保険や、携帯電話を通じての保険販売等により、生命保険は、低賃金層を含めた広大な未開拓層について、開拓のチャンスが到来する可能性がある、という。

一方、米国では、生保販売には「人によるコンサルが必要」と考えられており、インシュアテック等も、オンラインによるダイレクト販売からは撤退の方向にある、とされている⁸中で、インドのチャレンジングな取組みの行方は、どうなっていくのか。

著しい成長を遂げつつ、変容を続けるインド生保市場については、引き続き、注視していきたい。

「インドの保険監督規制を巡る動向—IRDAIによる一連の改革の状況（その1）—」（2022年11月9日）

https://www.nli-research.co.jp/files/topics/72907_ext_18_0.pdf?site=nli

「インドの保険監督規制を巡る動向—IRDAIによる一連の改革の状況（その2）—」（2022年11月15日）

<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=72997?site=nli>

「インドの保険監督規制を巡る動向—IRDAIによる一連の改革の状況（その3）—」（2023年2月3日）

<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=73796?site=nli>

「インドの保険監督規制を巡る動向 2023—IRDAIによる規制改革等の状況（その1）—」（2023年7月20日）

<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=75471?site=nli>

「インドの保険監督規制を巡る動向 2023—IRDAIによる規制改革等の状況（その2）—」（2023年7月25日）

<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=75570?site=nli>

⁶ インドでは、官民あげてデジタル化に力を入れている。その背景も含め、インドにおける生保商品のオンライン販売の状況については、松岡博司「インド生保市場における生保・年金のオンライン販売の動向—デジタル化を梃子に最先端を目指す動き—」『保険・年金フォーカス』（2023年7月19日）にて紹介されている。

https://www.nli-research.co.jp/files/topics/75462_ext_18_0.pdf?site=nli

⁷ Fitch Solutions Company, BMI 「India Insurance Report Q2 2025」より。

⁸ 小著「米国では、生保加入には「人によるコンサル」が不可欠だと考えられている—ニーズは高いが、実績はわずかなインターネット加入—インターネットを経由したダイレクト募集からは撤退の動き」『保険・年金フォーカス』（2024年11月29日）。

https://www.nli-research.co.jp/files/topics/80372_ext_18_0.pdf?site=nli